

## 水深測定ウキはいかが？

遠藤和彦

釣り場に着いたら、一刻でも早く投餌したいというはやる気持ちを抑えて水深を測定しポイントの状況を把握してから投餌することを前述した。では次にどうやって水深を測定するのか、その方法を説明したい。通常は、オモリが水面に着水してからいくつ数えたらコツと川底に着底するかでおおよその水深が感覚的にわかる。さらにオモリを横に引いてきてググッと重くなる所がカケアガリとか藻場とか判断する。この動作も何百回とやってくると手に取るように川底の起伏が見えてくると思うが私流の水深測定方法は次の通りである。

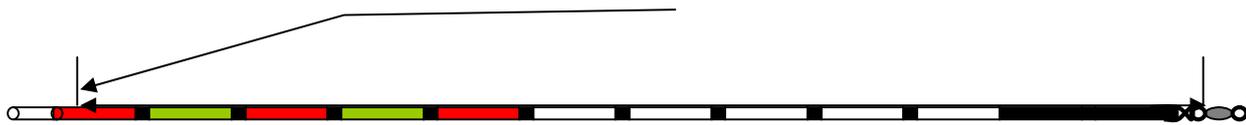


【長さ1.2mの水深測定ウキ】

## 1. ウキの準備

今の時期、田んぼの隅にヨシが生えていたりガマの穂が立ち枯れている。そのガマの穂の茎の部分を実約1.5mほど拝借する。なるべく軸のまっすぐなものが使いやすい。表面の枯葉を取り除き、茎の部分を底部径10mm、トップ（頂部）径5mm、長さ1.2mの棒状とし、底部に0.5mm真鍮線でヨリモドシを取り付ける。写真のように10cm間隔で水性塗料で塗装をすれば出来上がる。

また先端にケミホタル用のポリエチレンパイプ（長さ3cm）を取り付けておくと、夜間でも水深測定が可能である。



この水深測定ウキの長さは、算定しやすいように1mでも120cm以上が、長い方がカケアガリをとらえやすい。しかし長すぎると投げるのが難しくまた、強風時は風の抵抗を受けて遠くへ投げづらくなるので1.2mくらいが手頃なサイズと考えている。太さは取り付けるオモリにもよるが私の場合3号の磯竿のため、せいぜい12号オモリがやっとである。それ以上重いとサオのバネが利かず投げきれない。12号オモリでシカケが底に着くためには5-10mmの頂・底部の径は適切である。あまり太いと測定ウキの浮力が強くなり、12号オモリでは着底しない。

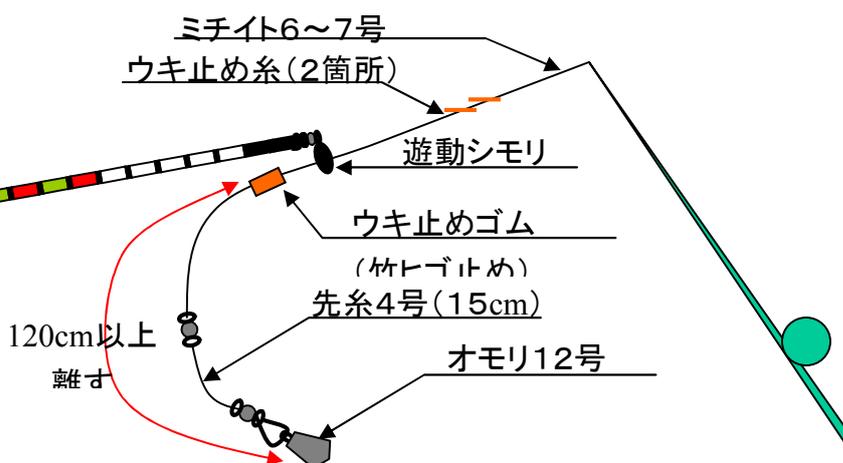
## 2. シカケ

左図のようなシカケを準備する。

ウキ止め糸の位置を上下に移動させつつ水深を図っていくことになる。そのため遊動シモリの穴をミチイトがウキ止めゴムからウキ止め糸までの間を自由に動けるようにしておくことが肝心である。

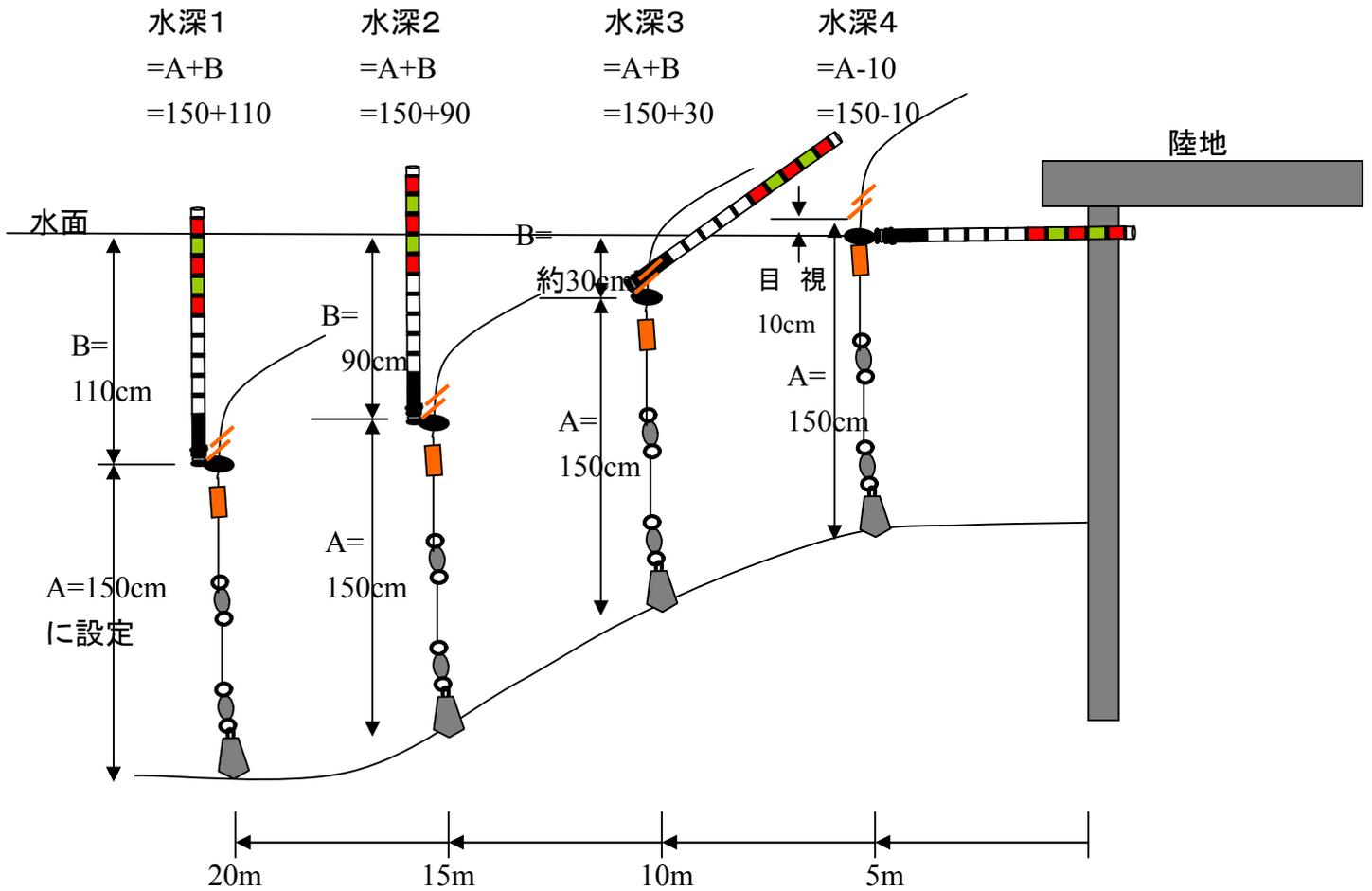
ウキ止めゴムは、オモリが着水した際にウキにぶつからないようにオモリから120cmの間隔をとること。

先糸はオモリがカカリに掛かった際に引き切つてウキを救出できるよう4号にしている。



### 3. 使用方法

水深測定の方法は次の通りである。

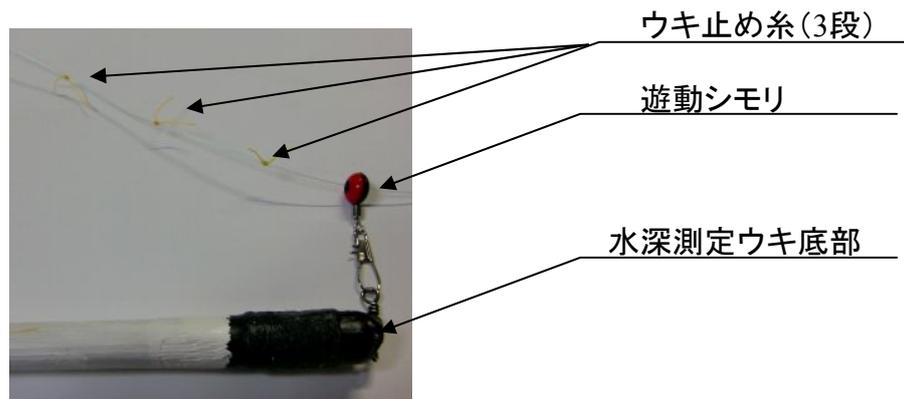


これらの各測定点をノートに書き込んでいけば、おのずと水深の等高線が見えてくる。また、自分で特にここを投餌のポイントにしようとする際にはさらにその付近を入念に測定する。Aのウキ止め糸から下の長さを水深により0からたとえば5mまで移動させることにより、水深0cmから620cmまで正確に測定することが可能となる。

また、このウキの長所として、カケアガリを引いてくると水面上に出ているウキの長さがカケアガリの傾斜によって面白いように急に伸びてくるのでどこにカケアゲリがあるのかがひとめでわかるのである。

河川のように流れのあるところでは着水してからすばやく水面上のウキの長さを読まないで測定ウキが流れに流されて斜めにシモってくる。毎回投げ入れた瞬間の点、点ですばやく測定していくことがコツである。

さあ、みなさんもコイさんが寝ているこの時期に水深測定ウキを作ってみませんか？



【水深測定ウキ底部の拡大】